

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

私の命をすくった税金

多摩市立聖ヶ丘中学校

三学年 菊地原 琉生

私は税金について深く考えたことがなく、それは私には関わりのない事だと思っていました。ですが自分の身近にある税は何だろう？と、インターネットを使い調べた時、救急車が頭に浮かびました。

私は四年前、小学校への登校中に車との事故にあい救急車で運ばれ生死をさまよいながらも、大手術をして長い入院生活を送りました。その後無事退院できたのですが、退院してから五日後自宅でまた倒れてしまい母が慌てて一一九番に電話をかけ、その時も救急車で運ばれました。二回もたすけられそのたびに迅速で丁寧な対応をしてくださった救急隊員のみなさまには深く感謝しています。

二度もお世話になった救急車が、税金で賄われていることを初めて知りました。日本では、どんな時でも無料で利用することができそうです。「日本で生活をしていると、無料で救急車を利用できるのが普通だと思っている人はたくさんいるんじゃないか。」と父が言っていました。日本ではない国ではどのような違いがあるでしょう。まず日本は、一回の出動で約四万五千円の費用がかかるそうです。人件費やガソリン代、メンテナンス代、などなど。これら全てが税金で賄われています。

海外は有料の国が多くあることを知り、とてもおどろきました。アメリカでは、ニューヨーク消防局によって救急搬送されると十四万

〜十六万円の費用をせいきゅうされ、更に、距離が一キロメートル増えるごとに千円ずつプラス、酸素投与の場合は七千円プラスになるそうです。シンガポールでは病状が重症か軽症かで料金が変わり、ドバイでは、搬送先の病院が公立なら無料、私立なら有料になるそうです。日本のように無料で利用できる国は、イタリアやイギリス、スウェーデンなどの少数であり、世界的に見ても珍しいと言われていることが分かりました。

私の話に戻りますが、手術や入院、通院で高額な医療費を請求され、姉が中学受験を諦めようかと考える時期もありました。その時は、家族みんながお金の事をしんぱいしていたからです。日本には医療費控除という所得税を軽減する制度があり、連動して住民税も低くなるそうです。医療費が全てかえってきたわけではありませんがこのような制度のおかげで、支払うべき税金の軽減をしてもらえた。有難かった。と両親は言っていました。

日本は税金の恩恵を受けていることが多くそのことを知ることができて、私は初めての税の大切さを実感しました。私は私の知らないたくさんの人達が納めた税金によって、支えられ助けられました。その感謝を忘れずに、将来、社会人になった時にはしっかりと税金を納めていきたいです。